

平成 29 年 2 月 25 日

回 覧

みずき野町内会

会長 佐々木保昌

副会長 山下勝博（防災担当）

防災部長 和田 哲

みずき野防災便り

町内会の災害対策本部立ち上げは震度 5 強以上です。

震度 5 強は白布準備

家族の安否確認後、門扉から見える位置に白布を結んで下さい。

自主防災隊の活動

みずき野では町内会班長で構成する防災部とは別に自主防災隊が活動していることをご存じでしょうか。春秋の防災訓練で各戸の安否確認を行っているのは、この自主防災隊です。黄色のベストを着用して活動しています。

災害発生時には、警察、消防、自衛隊など公的機関による救援活動（公助）が期待されますが、公助が開始されるまで最短でも 3 日はかかると言われ、公助に先立って自助、共助が欠かせません。

共助とは住民が相互に助け合い、消火、救助、避難支援、避難所運営などの活動に当たることです。この共助を支えるボランティア組織が自主防災隊です。共助活動のノウハウを蓄積するには、一年交代の班長組織よりも継続的に活動するボランティア組織の方が望ましいとの考えから 2013 年 8 月に自主防災隊が発足しました。

それ以来今日まで幸いにも大規模災害には見舞われていませんが、自主防災隊は非常時に備えて防災訓練での安否確認、負傷者の搬送、初期消火等の訓練、AED を用いた救急救命訓練、防災倉庫内の備蓄品維持管理、防災知識の学習、住民の共助意識啓発活動などを行ってきました。

各丁目の防災隊リーダーとサブリーダーが集まって毎月定例のリーダー会議を開催、こうした活動の方針、企画、検証を議題として討議を行い、決定した事を実行しています。

自主防災隊には上記の通り様々な活動が期待されていますが、特に災害時要援護者など弱者（行政は「要配慮者」と呼んでいます）に対する災害発生時の支援です。みずき野の人口約 5400 人のうち実際に要配慮者として支援を必要とする正確な人数は判っていませんが、市の調査では 121 名となっています。

一方、災害発生時に全ての防災隊員が在宅して活動できるとは考えられません。「要配慮者」支援、以外の活動にも隊員が必要です。現在 200 名弱の皆さんに自主防災隊にボランティア登録して頂いておりますが、それで安心だというわけには行きません。

住民の皆様一人でも多くの方が自主防災隊に参加されるよう、また皆さんが自主防災隊の活動を理解し、**非常時には隊員でなくても求められる共助活動に積極的に参加されますよう**お願いする次第です。

新たに自主防災隊活動に参加してみようとお考えの方は、ぜひ**集会所までご一報ください**。お住いの丁目を担当するリーダーから、活動予定、内容を連絡いたします。

向こう 30 年の間に首都直下型地震と呼ばれる M7 クラスの地震が起きる可能性は 70%、そのとき守谷市の震度は 6 弱と予想されています。地域住民全員で防災活動、減災活動に取り組みましょう。